

67 期
福
原
亨
一

鄧小平の死が伝えられた二月二十日、勤務地・岩手の地元紙記者が、鄧小平に会った印象を話せて訪ねてきた。

小生が北京に勤務していたとき、鄧小平は三度目の失脚から復活して、中国の歴史的な転換に指

導力を発揮し始めていた。日本からの代表团と人民大会堂で会談する鄧小平を取材に行って、何度かその風貌を身近に見たし、握手したこともある。(2頁に写真掲載)

小生がインタビュしたわけではないし、会談に同席したのではないから、会ったともいえないのだが、小さな体に機敏さと負けん気をみなぎらせ、明るいいたずらっ子のような雰囲気をつりまく老

人だったと覚えている。

同じころ北京にいた記者仲間
聞くと、とても柔らかな手だっ
たので驚いた、と言う者が多い。小
生はその十年くらい前、周恩来と
の握手で同じような印象をより強
く受けたものだった。

毛沢東はいまの中国の建国の父だが、その後の指導で、中国を迷路に引き込んでしまった。鄧小平はその中国を現実的なコースに引

き戻した功勞者である。思想家であり、夢見る革命家でもあった毛沢東に比べて、徹底的な現実主義者だった鄧小平の面目は、有名な『黄色い猫でも黒猫でも、いずれをとるのが良い猫だ』という言葉によく表れている。

昨年、中国のテレビが彼の生涯を十二回続きのドキュメンタリー番組につくって放映した。NHKが衛星放送で紹介したのを見ると彼のリアリストぶりを示すエピソードがいくつも紹介されていた。

例えば、鄧小平の改革・開放政策で、多数の留学生を米国はじめ西側諸国に送り出すことになった『せっかく米国で勉強させても、向こうの生活に染まって帰って来ない者も多いだろう』と心配する党幹部に対して、鄧小平は『千人の留学生のうち、百人が帰らなくても、九百人が学んで帰ればよい。一万人くらいは留学させる必要がある』とハッパをかけた。

十数年たった最晩年の鄧小平はふたたび幹部たちに語った。『留学生は全員に帰ってほしいのだ。帰国した留学生を大事に処遇するように』と。共産党支配下の中国では、毛沢東が知識人に警戒、不信の念を抱いていたこともあつ

静中・静高関東同窓会
会報 第43号
平成9年5月20日発行
編集人 上杉重吉

友人を誘って総会へ集まろう！

第二十三回関東同窓会総会を左記の通り開催いたします。
同期の友人などと誘い合って、ぜひご出席ください。出欠
のご返事は同封のがきで、至急お願いいたします。

平成九年度 関東同窓会総会・懇親会

日時・六月二十日(金) 午後六時三十分より

場所・東京都千代田区神田駿河台三十二

新日本証券 地下一階食堂

電話〇三一二九一三五三

会費・五千元（ただし在学者は無料）

年会費の三千円は当日受付けもいたしますが、この会報に同封の払込用紙によりご納入をお願い申しあげます。

議題・平成八年度事業報告、会計報告

平成九年度事業計画、予算 その他

引続き、**懇親会**

(例年通り郷土色を

盛り込む計画を立てております。）

しめきり…

六月十日

同封はがきに50円

切手を貼付して、

出欠を至急ご連絡
ください。





て、知識人の処遇は政治的にも難しい問題だった。鄧小平のこれらの発言は実に大きな意味を持っていた。

鄧小平の対外開放政策、『海外と交流しなければ、世界に遅れてしまふ』という危機感を強調するところが大きな狙いになっている。この番組が編集されたころは、中国

国民の間になんか感情的な日本批判が広がっていたと思われるが、そのような冷たい空気は画面に反映していない。

彼の訪日、訪米の際の熱心で友好的な言動が大きく扱われ、日本記者クラブの会見で、尖閣諸島の問題は次の世代の知恵に任せようと語ったくだりも詳しく紹介された。

いま解決できない問題、機運の熟していない問題は先送りするのが上策、というやり方が彼の現実主義の特徴だった。彼自身、議論のための議論はやらないのが自分の長所だと自負していたようだ。キッシンジャーから『あなたは理論ではなく、実行の人だ』といわれて満足そうな表情が写し出されていた。

米国テレビのインタビュアーに答えて『生涯で最も苦しかったのは文化大革命だが、この文革も中国にとって災難だけでなく、良い面もあった。中国人が教訓を得たからだ』と語るシーンがあった。

確かに文革の悲惨な経験を共有することによって、はじめて中国の国民が建国の英雄・毛沢東の路線の失敗、社会主義の欠点を辛直に認め、それを改める必要を納得したといえるだろう。

本当は、なぜ文革があれほど悲惨なコースをたどったのか、その原因をもっと深く検討し、反省すべきだと思うが、古い歴史経験を直視するのは、どの国でも容易ではない。

鄧小平は経済の改革に絶大な功績があるが、政治の改革を後回しにし、特に天安門事件の民主派弾圧で歴史的汚点を残した、といわれている。

中国のように大きく、古く、複雑な国で一度にすべての問題を解決することなど、できるはずがない。鄧小平の残した成果を利用した上で、残された難問、次から次へと起る深刻な課題に取り組むのは、残された人たちの責任だ。

それも鄧小平が選んで残した指導者の手でやれるのは極めて限られた範囲のことではない。

日本もアメリカも鄧小平の流儀にならってじっくり構え、できることからきつちり進めていくやり方で中国とのつき合いを深めていくのがよいだろう。

(97・2・6記)

△福原亨一氏略歴▽
一九三二年四月、静岡市生まれ。
五五年三月、東大経済学部卒業。
同四月、共同通信社に入社。
東亜部・外信部・政治部記者。
六六年十一月―六八年五月・七五年四月―七八年九月の二回にわたり北京支局長。編集委員・論説委員を経て八八年七月論説委員長。
一九七八年度日本新聞協会賞を受賞。

九〇年六月㈱共同通信社取締役情報企画局長。監査役を歴任。
九三年四月岩手大学人文社会学部教授に就任、現在にいたる。

ご参加を 懇親会・総会の 年に1度の集いに

○多忙な毎日とは思いますが、声をかけ合
い、久しぶりに集って、旧交を暖めよう
ではありませんか。

○同期会を兼ねた会合に盛り上げたいと、
幹事一同念願しております。同窓の誼、
思いがけぬ出会いもあることでしょう。

○東京・静岡間は「ひかり」で約一時間、
わが故郷もすいぶん近くなりましたが、
郷土の名産を賞味しながら、岳南健児の
意気と力で楽しい会に、そして声高ら
かに校歌を歌おうではありませんか。

(1ページの案内を見て、ご返事を)

る。又当時はこの大通りの真ん中を路面電車が走っていて、招魂社のある安西まで行くことができたのも懐かしい思い出である。

もう一つの私の好んだ通学路はみゆき通りから外堀に架かっていた橋を渡って旧師範学校とその付属小学校や市立図書館の並ぶ路を歩兵第三十四聯隊の正門の前を通り、刑務所のところで回って草深に出る内堀沿いの道筋であった。

城内にあった聯隊には軍旗祭などの時に中に入ったことがあったが、中央の広場を挟みコの字形に白壁の兵舎が並んでいたのを覚えてい。今では自由に入れるが内部はすっかり変わってしまつて当時の面影は全くない。

また師範学校に隣接して武徳殿があり、当時柔道部員だった私はここで何度か試合をしたことを思い出す。柔道部では古曳先生に本当に親身のご指導を頂きながら、不肖の弟子で卒業の間際に先生の格別のご配慮でやっと初段を戴くことができた程度でしかなかった。しかし小学校時代大病ばかりしていた私が今日まで生き長らえていられるのは、在学中に柔道を続けることができたお陰と、今でも先生のご指導に深く感謝している次第である。

いろいろと思ひ出は尽きないが、私にとっては特にこの昔の風景が残る内堀沿いの街路は、小学校から中学へかけての記憶が次々と思い出されて懐かしい。だから私が静岡の街を回想するとき、昔の面影が偲ばれるこの内堀や外堀の景観だけは、いつまでも原風景のまま残してほしいものだと思っている。

心の中の観音様

57期 鈴木 明

東海道新幹線が開通し、東名高速道路が出来て以来、昔の東海道線を利用する機会は何となくなくなったと言つて良い。

昔の東海道線に乗って、大船に近づいた時、左前方に小山が見えその山の向うに、ヌッと大きな観音様が、のし掛かる様に目に入ってくる。

最初に見た時は、ただ驚いた事であった。

それが二度、三度と見るうちに観音様のお顔が和やかで、然も実に美しい事に気付き始めた。

あの観音様は一体誰れが造つたものか、コンクリートで造られて居る様だが、坐像なのかしら？それとも立像なのかしら？

坐像だとすれば、あの小山の向

うは谷あいの深い所に造られて居る筈であるし、立像であったとしたら、あのお顔の大きさから考えて大変深い谷間に安置してある筈である。

考えても仕方の無い事であるが、急に掛ける程の事で無いのでいつの間にか忘れて居た。

横須賀に従弟が住んで居て、一年に一度位逢うので、その事を話した。

或る夏の終りに、二人で確かめる事にした。

駅員に尋ねたり、農家の人に聴いたりして、小山の上に登った。観音様は我々の頭上に覆いかぶさる様に見えた。

小山の頂上に立った時、意外な気持ちで見廻した。小山の頂上は平地になつて居て、観音様は、その平地から生えた様に胸像が在ったのである。小山の頂上の平地に、大きな観音様の胸像が、考えられない大きさで存在して、胸像を守る人の姿も無いし、小屋も無く、その観音様の説明の高札も無く、ただ小さな賽銭箱が、ボツンと置いてあるだけであつた。

うそ寒い様な、空虚な感じで、従弟と二人顔を見合せたばかりであつた。

気抜けしながらも、此の途方も

ない大きな観音様を、首が痛くなる程に見上げながら、矢張り美しい面差しに見入って居た。

二人とも学生であつたから、もう五十年前の事で、その後、観音様を見た事も無い。

大船を通過した事もない。

今、その観音様は、どうなつて居るのか、大船の役所に問い合せれば解る事なのに、それをする程の努力もせずに居る。

観音様のあの美しい面差しは、私の心の中に大切に保存して居たので、もう一度、その後の観音様を見に行く事は遠慮して居る。

母校にまつわる

四季の思い出

68期 塚本 浩司

一、冬

一九四六年二月。静中めざして受験勉強のまっただなかの或る日、消防のサイレンが鳴った。南の方に煙が見える。近所の人、「静中が火事だつて。漏電らしいって話だよ」

戦災の焼跡に建てたバラックに許される照明は一軒に一個だけの薄暗い電燈のみなので夜は勉強出来ない。冬の短い日、暗くなるまで学校で勉強した。鶴亀算を算数で解くのはひどくむずかしかつ

た。六年生の担任はよく指導してくれた。とても感謝している。我が生涯で最も勉強したのはこの時期だったという事になるかもしれない。その頃出来た鉛筆ダコが今も右手中指に残っている。

二、春

一九四六年四月、静中入学式。今ならさしずめビックリビックリの一年生、当時はヨレヨレをまとつた一年生。仮校舎の校庭に整列した新入生の前に先生方が立つ。村松先生(地理)の戦闘帽の校章の「中」の字が陽光を受けてキラキラ光っていた。

三、夏

一九四五年六月二〇日。私、城内東国民学校六年生。焼夷弾の火に追われて逃げ惑ううち、長谷通りを横切つたらしい。父が叫んだ、「静中が燃えてる」。私が入る筈だった校舎は紅蓮の焰に包まれていた(私と静中との最初の出会いである)。安東辺りの民家の庭先を借りて休ませて頂いた。市内は火の海だったがその辺りには焰は迫っていなかった。疲れて動けなくなつてしまった父母と私の一家三人を、上品な婦人と御子息らしいゲートル姿の少年が、いつここにも焼夷弾が投下されるかもしれない緊迫した状況の中であ

れこれ面倒を見て下さった。何も根拠は無いのだが、この時私はこの少年を静中三年生と思い込んだ。今でもそう思っている。やがて焦熱の夜が明けて、我が家三人は練兵場隣の神社の境内にうずくまっていた。母は眠っていた。近所の婦人が、多分乏しいなかからさいてくれたであろう茹でたじゃがいもを三個、紙にのせて持ってきてくれた。ありがたかった。

父母も他界して、今となつてはどなただったか、たずねる事も出来なくなつてしまつたが、この時の凛々しい静中生とじゃがいもの婦人の事は終生忘れないだろう。

四、秋

静岡城内高等学校印高祭。歩兵三四連隊、橋大隊長銅像跡に据えられた白い物体。ヴィーナスを模した(らしい)美術工芸部・絵画部合作(らしい)の労作である。

濠の外の道路に向かって「ミロ」と大書してある。そう書いてなくとも見る場所だと思う。が、「ミロ」と書かねばならないというところが「白い物体」とした所以である。

五、再び春

いつの頃からか卒業式のシーズンともなると街に袴姿の若い女性が目立つ様になつてもう久しい。

袴とあの靴のとり合わせは文明開化的アンバランスといった様な不思議な雰囲気を感じさせる。

自分の卒業式を思い出したくて先年、我が息子の高校卒業式に出てみた。二人とも夫々都内の私大の付属高校で学んだ。若人達へ贈られるすばらしい饒けの言葉が期待したのだが、壇上から聞こえてくるのは四月からの大学の説明や注意事項みたいな話がほとんどで何やら拍子抜けしてしまつた。

仮校舎の静中へ入学し、仮校舎の城内高を卒業する、貧しく苦しかった、そして楽しかった六年間の学園生活の最後。城内の旧兵舎内を改造した講堂(?)での六八期卒業式。卒業生代表、生田浩二君(故人)の答辞「日本の完全独立と世界の平和のためにたたかいます」は耳から消えない。

仮校舎校庭の送電鉄塔、引込線、岳南神社、排球部と文芸部が同居する珍妙な部室……

今は昔のこととなつた。

静岡食い物事情

68期 萩原多賀男

静岡は食い物がうまいところである。三十八年ぶりに東京から移り住んでみてつくづくそう思う。移り住んだところは掛川だが、同

じ静岡県でも大井川の西と東では大分味も事情も異なる。そこで懐かしい味を求めて静岡市内をうろつき回るといふことになる。

静岡駅前で戦前戦後を通じて一番目立つビルといえは松坂屋である。この八階に昔ながらの大食堂があることは静岡に住んでいながら知る人はそう多くないようだ。専門店が並ぶレストラン街ではない。日の丸が立つお子様ランチをはじめ、すし、どんぶり物、そばにステーキ、オムレツ、中華などでもござれのあの食堂が健在なのである。その責任者の話では「東京のデパートには一軒もないはず。私の知る限りではこと名古屋の松坂屋だけ。もつと西へ行けばわかりませんが全国でもそんなにあるとは思えません」という。以前は大浜公園の松林を眺められたというが、今は駅ビルやホテルに遮られてゐる。昼時、四、五人で飯を食いにっこうとなるとそれぞれ食いたい物があつてなかなか行き先がまとまらない。ここだとその悩みはなく、正午前後はサラリーマンで結構混雑する。

静岡といえは煮込みおでんである。しかも駄菓子屋のおでんでなくちゃいけない。ひとところ呉服町や両替町、青葉通りなどにたくさ

ん屋台のおでん屋が並び、ここで煮込みやはんべんのフライをほおばりながら一杯やるのも楽しかった。ところがいつの間にか屋台は整理統合され、あちこちの「なんとか横丁」にまとめられてしまつた。今では煮込みおでんやフライばかりでなく、ほかの肴もいっぱいできるようになり、どうもおでんには手抜きしているような気がする。元屋台という店であつた煮込みおでんにはぶつからない。駄菓子屋のおでんで私が推薦するとすれば人宿町二丁目にある。戦前は「あめや」とよばれていたそうだが今はただの「おでんや」。特徴は肉。モツをクシに刺しているだけでなく、スジ、フワ(肺臓)など多彩。冷蔵庫にはラムネ、ジュースなどと並んで缶ビールがあるのが嬉しい。七間町を県庁から駒形に向かって元桜湯の角(桜湯といつてもわからない人が多いかな、じゃ元国際劇場、これもわからないか)。とにかく十二間道路から二本目を右に曲がつて五十メートル、七間町郵便局の前。わか

らなければ近くの商店で聞く。次はそば屋。こればかりは私がいまいと感じても、人によつて味わい方が微妙に違う。今、わりと評判がいいのは、鷹匠町二丁目の

「つむらや」。精華女学校のグラウンドの近く。純粋な日本そばを売り物にしているのにラーメンがうまいという妙な店だ。ラーメンといえば両替町と七間町の角近くに戦後間もなくからある「桃花源」の味は変わらない。とくにワンタンメンがよろしいようだ。

外堀を英和女学校を左に見て東に進み長谷通りにぶつかったところにあるのが甘味の「一富士」。戦前は旧制静岡高校生が通っていたらしい。母校のすぐ近くだが6期以前の生徒は補導連盟のおっかないおじさんたちの眼が怖くて見向きもしなかったし、57期以後は食料不足で売り物がなく、その上学徒動員やら空襲で長谷の校舎に近づくこともなくなり、ようやくこの店に静高生が出入りするようになったのは69期以降である。経営者の三姉妹は、四十数年経た今も健在で、そのまんまおばさんになつてしまつてゐる。この店の売り物がラーメン。あつさりしている。自家製のアイスクリームなども評判がいい。

静岡には約二百五十軒のすし屋があるが、同窓生が経営している店もあるので、うかつにあそこがうまくて、ここがまずいとはいえない。ここなら満足するという店

を一軒だけあげろ、といわれれば用宗漁港近くの「すし国」。静岡でしか食えない生シラスも用宗漁港から揚がったばかりのものを使っている。シャリをノリで軍艦巻きにして、その上に生シラスがおおしショウガと共にどっさりというほど乗っている。その他のネタも豊富。ビール一本飲んで、いやというほど食って四千円ぐらい。ただし生シラスは禁漁期があるので前もって確めた方がいい。電話は静岡へ着いたら自分で調べることに。

IR活動と企業経営

91期 奥津 和宏

ビッグバンと証券市場

2001年までに東京を、ニューヨーク・ロンドンと並ぶ国際金融都市に復活させようとする、ビッグバン構想が具体化してきた。金融機関・証券会社にとって、これまでの日本的な、あ・うんの呼吸で取引を進める手法から、英米型の、一見ドライにみえながら、論理的で説明のつく透明性の高い取引手法が求められるようになった。これは金融機関・証券会社のみならず、事業会社が株主・投資家とどのようにコミュニケーションしていくかということにも影響を及ぼしている。

IR活動とは

銀行や取引先に大株主になってもらい、経営者と株主があ・うんの呼吸で信頼関係を築いていた時代は終わろうとしている。IR活動は日本の証券市場が説明のつく論理的なマーケットに変っていくためのレシビ(処方せん)なのだ。

株主と経営者

冷戦の終結は資本主義の勝利であったと同時に、より純粋な資本主義への回帰を促した。即ち株主の地位の向上である。企業経営者は株主から会社を預り、株主の価値を増大させることが強く要請されるようになった。特に、今後、株式の持合構造が弱まり、年金基金や外人投資家などの株式保有比率が増加する時、経営者は株主に対し、経営方針の説明と報告を丹念にしていくなければならぬ。

IR活動とは、これらの説明作業のことを指している。

IR活動と証券会社

証券会社は、投資家とマーケットを結ぶブローカーであるだけでなく、上場・公開企業の資金調達をマーケットを通してお手伝いする投資銀行でもある。そして今後は企業財務全般のコンサルタントであることを求められている。

その中で企業のIR活動を支援

するIRコンサルタント業務も重要な仕事になっていく。新しく株式を上場・公開する場合、証券アナリスト、機関投資家・証券会社の営業員、経済ジャーナリストなどに、いかにその企業と経営者を評価してもらうか、投資家・株主の立場に立って企業を指導していくことが求められている。

IR活動が変える証券市場

IR活動は、企業経営を透明で説明のつくものに変えていく役割も果たしている。証券アナリストからは事業の収益性、経費の削減などを常に求められ、安易な投資や不透明な経費の支出は次第にくなくなっていく。経営効率が向上していくケースが多い。その意味でIR活動は日本企業の成長とそれに伴い、株式相場の上昇に結びつく可能性を秘めている。

鍵を握る証券アナリスト

証券アナリストは投資家にとって、代理人として企業を取材し、投資評価を下していく重要な職業である。彼らが真に企業の成長力を見抜き投資家に伝えていくことができるようになれば、「日本の株式市場は変わる」のである。

●IR……Investor Relations

(インベスター・リレーションズ)の略。

塩原 一九九七年 春

64期 増田 政雄

那須野が原の森たちが、美しく粧う季節が廻って来た。

温泉たちは、弾むような湯煙りを上げて湧き出してくる。

神秘で清らかな、乙女のような君たちの、

歓喜の歌が聞こえる季節が戻って来た。

天下りの、県のお役人の強制で、「首都機能移転促進決議」が、強行されている。

西那須野町議会は、一七対五。塩原町議会は、十四対三。

黒磯市議会は、二十二対二。昔、殿様の居城のあった大田原市だけは、抵抗している。

君たちは、祖母から聞いたことがあるだろうか。

今を去る百年の昔、お隣りの足尾の山々で、

非道い目に合わされた仲間たちの目も被いたくなるあの悲惨な出来事。

今、黒い重油が、日本海を洗い、発ガン性のダイオキシンが、空を漂う。

核燃料の処理施設は、爆発し、得体の知れない奇病が、辺りにびこる。

あちらこちらで、地震が起こり、日本列島にも、恐怖が忍び寄っているようだ。

那須野が原の美しい森たちよ、弾むように湧き出してくる温泉たちよ、

何時までも若々しく華いできて欲しい。

腐敗と汚辱にまみれた人々の手で君たちを犯し、踏みじり、なぶりものにさせてはならない。

この四月、塩原町議会の選挙が行われる。

全員が保守派と言われるこの過疎化が進む町の議会に、

初めて女性が挑戦するという。

この古い町を支えて来た、女性たちの声を議場に届けたいという

風よ、巻き起これ。

山河よ、どよめけ。

力強く芽吹くものを励ませ。

一九九七年の塩原の春は、

新しい時代の始まりを予感させる春です。

一九九七年四月

塩原町大字横林もみじ平にて

凱旋橋

61期 稲森 慎二

何時もなら夏休みと言う所ですが、今年は八月も毎日授業が続けられておりました。

午後の授業をしまったU先生は、会議室の椅子に寄りかかり、紫に立上る煙草の煙の行く手を見守っておりました。夏にしては珍しく風の無いおだやかな午後でした。この部屋には若い二人の先生が読書しているだけで、他の先生はもう帰ったとみえて教員室の方もひっそりしておりました。時計は3時を回っておりまして。汽車で通っていた先生は、日中歩くのが嫌でしたから、夕方の汽車に乗る事しておりました。

よしす越しにまだ真夏の太陽が輝き、蟬の声も一層暑そうでした。吸い終った煙草をもみ消した先生は、ちらっと時計を見て「4時に乗ろう」とつぶやいて、教員室に戻りました。給仕が出席簿を揃えておりました。

帰る仕度をしていると、急に遠い方の扉が開いて「U先生いらっしやいますか」と元氣な声が聞こえました。

先生は直ぐに自分のクラスのSだなどと思いました。と同時に、昨日より陸士の体格検査に行っている筈のSが来たので一寸驚きながら

「どうしたんだ今頃、もう帰ってきたのか」と、晴々とした顔をしながら歩いて来るSに向かって話しかけました。顔を見ただけで先生は安心して、どっかり座りなおしてSを迎えました。

「先生 どうにか終わりました 今帰ったばかりです」

「そうか よかったなあ 眼の方はどうだった 大分心配しとったじゃあないか」

「0・8まで見えました あとは通知が来るか来ないかですがやるだけはやりましたから」

「君は体格さへ通れば大丈夫と思うがな まあよかったよかった わしはもう帰るところなんだがそこまで一緒に行かないか 支度するから一寸待っていてくれ」

U先生と肩を並べて、Sは興奮した口調で話しながら歩いて行きました。

「なんと言っても飛行機ですわ先生 陸士に入って鍛えれば 眼なんか良くなっちゃうと思います」先生は教え子を持つ身の幸福に微笑みながら、時々合口を入れました。

した。

陽も大分傾き、風も出てきましたので、この事と言ひSの事と言ひ遅くまで居残っていて良かったと思ひました。

「先生 この橋でお別れします一寸草深の兄貴のところへ寄って行きますから」

「そうか…… ところでこの橋はなんて言っただけかなあ」

「凱旋橋です」

「そうそう 凱旋橋だったなあじゃあ」

「失礼します」そう言っ彼は張り切って敬礼をしました。

先生もにっこり笑って答礼し、白い橋を渡って行きました。

U先生は中壕を通りながら、いま別れたSの事を色々考えていました。

何時頃少尉になるだろう 頭が良いからきつと出世するぞ 何時までも私を忘れないでいてくれるといいがな

蟬も鳴きやんだお壕端に、営門の方から勇ましい軍歌が聞こえておりました。

駅についた先生は、毎日混むので、ホームの先の方に立っていました。汽車が来ましたけれど、はじめの二輛は軍用列車でしたので

少し後ろに戻り、三輛目とのデッキに乗りました。幸にデッキにはお客は一人もいませんでしたので、先生はじき下りるからと思つて、壁に寄りかかっていた。

町中を通過し田圃にさしかかった頃、軍用列車から一人の若い将校が出てきました。胸には金モールの翼がありましたから、あまり知らない先生にも、航空兵だなど解りました。先生はじつと見ておりました。通り抜けようとしたら

しかったのですが、中が非常に混んでいるのでたじろいでいました。仕方がないと言ふような顔をしてあたりを見回し、先生と視線があつたので、一寸微笑して、

「混んどりますなあ」と言いました。この大人びた言葉に、先生も微笑みながら、

「ご苦労さまですねえ、毎日こうなんですよ」と言つて、硝子戸越しに車内を見渡しました。この時

将校は先生の戦闘帽の徽章を見て「あなたは中学校の先生ですね、どちらの中学ですか」

「はあ 私は静岡中学の国語の教師をしております」

「そうですか あなたの学校でも、今年 沢山 陸士へ行くでしょうなあ」

先生は一寸得意になりました。

「学科では五十人程入りました。いま体格検査でみんな陸士に行っておりますが、この汽車あたりでも帰ってきた者があるでしょう」「そうですね」静かな声でした。異様な感が含まれておりましたが、この時先生にはそれが感じられませんでした。

しばらくの後「私も陸士を出て、航空士官学校を卒業して、初めて戦地に向かうところです。これなんです」将校は胸をたたいて笑いました。

この時先生は、はっとして得意になっていたその心も何処かに消え去りました。

「私は今年二十三です…… 実を言ふと未だ死にたくありません」年をとった先生には、よく解りました。そうだろうなあと思ひました。

先生はかるく頭を二度下げました。将校は話し続けました。

「しかし 陸士でもみっちり鍛えられましたし もう国のためなら何処でも命を投げ出せる覚悟は持っております。今の日本は 我々のような若い青少年の熱血でなければ立って行かれないのですから私もこの感激をおぼゆる時は 命なんか何とも思いません。あれだけの部下を持っているんですから

なあ

今あなたが先生とわかった時に
妙に中学の恩師が懐かしくなり
ましてねえ 私の恩師も もう相
当の年です ご無沙汰していたの
で せめて行く時と思つて訪ね
ていったのですが、何処かへ移っ
たと言うことで 日も無かったも
のですから ついそのままにして
来てしまいました 先生も陸士に
入ったのはご存知ですから 何処
かの戦線で戦っていると思つてい
るでしょう もう一度会いたいと
思います 内地を出るまでは 何
処かでめぐり逢わぬかと思つたり
しているんです

「はあ そうですか」先生は再び
うなずきました。

汽車は轟々と安倍川の鉄橋を渡
っていました。

「なんだか未練がましい話を 未
知なあなたなんか話したりして
失礼でした」

「いや そんなことはありません
せん だが元気で征つて下さい 体
を充分気をつけて こんなことを
言うやうな変ですが 命を大事にし
て 軽はずみな事をせぬように 命の
捨て所をよくわきまえて下さい
死ぬ事ばかりがご奉公ではないの
ですから 私は何時も生徒にこう
言っているんです」

「はあ 有難うございました……

陸士に五十人 見事ですすねえ 我
も安心して征けます。今の中学
生は張切つてますなあ 実際」

将校はデッキの手摺を両手にも
つて、赤く焼けた西空をまぶしそ
うに眺めました。その後ろ姿を見
て、先生は自分の教え子の様に思
われてなりませんでした。

「今の川は何て言うんですか」

「安倍川です」

汽車は手越ヶ原の古戦場あたりを
走っておりまして。

じつと考え込んでいた先生は、

ふと さっきの凱旋橋と言う名前
を思い出していました。安倍川橋
だつて、凱旋するときは それを
祝う凱旋橋なんだ。どうか再び意
気揚々とこの橋を渡る日が来るよ
うにと

沢山の兵隊さんが凱旋するよう
になるまでは目をつむらぬつもり
だから、その時が来たら、私は今
日の事をきつと思ひ浮かべるだろ
うと思ひました。

先生は、どうかこの若者が無事
に凱旋出来るようにとその後ろ姿
に向かって祈りました。汽車はち
らほらと梨畑の見えるところを走
っておりまして。

汽車が先生の下りの用宗の駅に

着きました。

「では私はここで降りますから」
先生はホームに立つて、じつと將
校の顔を見上げました。どこか決
意の色がみなぎっていました。

短い停車時間も終わって発車の
ベルが鳴りました。それまで無言
でいた將校が

「失礼ですが先生 お名前は」

先生は静かに手を左右に振りまし
た。

「武運長久をお祈りしますよ」
静かに汽車はすべり出しました。

「では元気で参ります。どうぞお
達者で」

何時の間にか純白の手袋をはめて
にっこり笑つて敬礼しました。

「お元気で」 先生も急いで歩き
ながら、ハンカチを出して高々と
振りまわした。夕闇に白い手袋が
くつきりと見えました。

あのにっこり笑つて敬礼した顔
が、先生の脳裏から離れませんでした。

突っ立っていた先生の老いた臉
には、熱いものが一ぱいこみ上げ
てきました。

(昭和19年8月)

旧作「凱旋橋」について

凱旋橋は静岡市の中心にある駿
府城の外壕に架かった、何の変哲

もないと言つていいような白い小
さな橋であつた。今は駿府公園に
なっている城内も当時は歩兵第34
聯隊の兵営があつた。日露戦争で
勇名をはせた関谷聯隊長と橋中佐
の銅像のあつた宮門からは、この
橋は丁度裏門側にあるから、どう
してこの橋に凱旋の名がついたの
か私は知らない。

昭和19年8月末から学徒動員で
三菱の発動機工場に行く事になつ
ていた私達は、静岡中学の四年
生、16歳の夏であつた。

その頃 完全に傾倒していた国
学院出の国語の先生 内山先生か
らうかがつたエピソードをもと
に、初めてこんなものをまとめて
みた。

当時5年制だつた旧制の中学も
私達から4年卒業で追い出される
事になり、私も陸士や海兵に秋波
をおくりながらも、父の「お前が
一人前になる頃は、戦争もどうに
かなっているだろうから、そんな
に軍人ばかり多くなつてもどうし
ようもない。」という言葉も半分納
得して、翌年の春は旧制の静岡高
等学校の理科甲類を受験すること
にしていた頃である。

この短編は、その頃両親と7人
兄弟と兄嫁と義兄を合わせた16人

の家族の会「緑会」でまとめた文
集「緑」の3冊目「慰問の為の夏
号」昭和19年8月発行に載せたも
のである。編集は、満州に征つて
いたすぐ上の兄に代わって私が初
めて手掛けたものであつた。

当時、もう年配の長兄も静岡聯
隊に応召中で、義兄も8月8日名
古屋の連隊に入りそのまま満州に
連れてゆかれ、次兄だけが南方戦
線から帰還し又何時かりだされる
か判らないような状態にあつた。

そうして翌年の6月19日の夜、
静岡市はB29の空襲で灰燼に帰し
た。命はとりとめたものの、私の
それまでの財産は殆ど失つた。旧
制静岡高の7月に延びた入学式を前
に整えた数少ない教科書をトラン
クにいれて逃げた。その中にこの
小冊子が入っていた。

その後、あることは知つていた
が、そのまま50年たつてしまつて
去年ようやく開いて見た。読み進
むうちに、恥ずかしながら、あの
時期が懐かしく又いとおしい氣持
で一杯になった。

紙もボロボロになり、謄写版の
字もかすれてしまつて判読に難し
い所も多かったが何とか再現でき
た。

旧仮名づかいを新仮名にしたほ
かは、殆んど元のままにした。

同期会など

四三期

春爛漫の桜花を楽しみに、浅間神社の廿日会祭の中日の四月三日を四三会名にちなんで、第九十九回目の四三会を第百八十三回目の月例昼食会を兼ねて両替町の三笑亭で開催した。相憎の長雨で残念ながら花見は不発に終ってしまった。

当番幹事の見原三郎君から会員二十九名全員に案内状が発送されたが、年度始めの四月上旬であり用務のため欠席者多く関東の柳沢保雄君が出席したが、倉沢栄吉、長戸寛美、三宅静雄、吉江誠一の諸君と私は欠席してしまった。見原君の報告を次に紹介する。

関西からは常連の平山桂君が元気で出席された。

静岡付近の会員も平成に入り病氣療養中の方も多く、昨年度は会員六名が他界されて幽明境を異にされてしまった。

今回は磯谷幸一郎、河村亮、高須彰、堀田利郎、見原三郎の五君が出席された。

見原三郎君より母校、同窓会の

ことや四三会員の回答による近況が報告された。

関東同窓会総会は今年から六月第三金曜日（今年は六月二十日）開催と決められた。

江ノ島会は九月七日（日）開催で、何れにも多数の出席の要望があった。

開会に当り物故会員の御冥福を祈って黙祷をしてから、平山桂君の音頭で乾杯をして鋤焼鍋をかこんで宴に入った。

四三会も昭和二十一年第一回を初めて開催してから今回で第九十九回目に当り、来年は第百回の記念すべき大会である。月例昼食会も明年秋で二百回となるので併せて合計三百回の大会である。

会員も全員が米寿を迎える年で更に大正十二年四月入学以来七十五年、昭和三年三月三日卒業してより七十年目で総べて特筆すべき節目の年である。

母校もこの平成十年は創立百二十周年で、創立百二十五周年の記念大会も目前である。

会員一同健康に留意して、行事には一人でも多く参加するよう祈

る次第である。

今回は天候不良で浅間神社や駿府城の桜花も見物できず誠に残念であった。

三笑亭心尽くしの鋤焼と美酒をいただき、少人数ながら旧交を暖めて次回の月例会や来年の合同三百回記念大会を目標に、また二十一世紀までを目指しての再会を楽しみに東西に別れて閉会した。

（西沢純三）

六〇期

毎年四月開催が恒例になった、わが六〇期卒クラス会、昨年の焼津、一昨年の清水に続いて、今年は三年ぶりに、静岡市での開催となった。

お濠端の葉桜が美しくなった十八日、会場の日興会館鳳凰の間には、午後五時半の集合時間前から、なつかしい顔が続々と訪れて来る。中に二人も、鼻にパイプを着けた携帯用酸素吸入器を引っぱりながらやって来た友がいたのは驚いた。混雑の激しい東京では考えられないことだ。

関東からの十一名と遠くは熊本・鳥取など県外から十四人、静岡県内から五十人、併せて六十四人の参加と近年にない盛況である。それというのも、まだ連日の空襲



岳南健児一千の理想は高し富士の山 八面玲瓏白雪の清きは我等の心なり

下にさらされてきた昭和二十年三月の卒業から五十二年目、今年から来年にかけてほとんどが古稀を迎える年でもあるからであろう。

一同揃ったところで写真撮影を済ませ、早速宴会に移る。幹事・才茂菅英君の開会の挨拶、そしてこの一年の間に梅原正君の死亡が判明し、これで物故者の合計が五十三人になったとの報告があり、御冥福を祈り一分間の黙祷を捧げる。

次いで最長距離の熊本から見えた内野昭三君の音頭で乾杯をし、献談となった。

飲んで食べて、だんだんに話のボルテージが上がリ、学徒動員中の出来事、さぼった授業のあれこれ、野球・サッカー・柔道など部活動の思い出、更には卒業後のあちこちでの出会い等々、人の輪がテーブルを越え、話の輪が右に左に移り動き、「……しょんないじゃん」「……行っちゃったけよう」「また、やらざア」といった静岡弁がいとも自然に飛び交うのも地元のクラス会ならではの光景で、日頃標準語にかこまれ首都圏で暮らしている身には、ぞくぞくする喜びであった。

かくして、ますます声が高まり宴が盛り上がる頃、早くも閉会の

時刻が近づき、これも恒例になったわが六〇期の人気者、ニックネーム「ガス」こと杉本武君の、いつもながら締まらない、しかしまことに愛敬のある締めのことばに続き、校歌「岳南健児」を四番まで、何とかつがなく斉唱。最後で杉本君の昔変らぬ大声に合わせて「フレ、フレ、六十回」を連呼し、名残りを惜しみつつ来年の再会を約して散会となった。

(原 善三郎)

六四期

正月十一日、中野「プリモベール」の会合に集いし者、十三名。年末年始の過し方について報告。

名波倉四郎君、サッカーの選手に、名波というのが出て来たおかげで、やっと「ななみ」と呼んでもらえる様になった。それまでは「名波倉」とか「なわ」と呼ばれて、いい気持でなかったが……。

また、学生の頃やっていた俳句の会「ごうまん会」の復活を伊東の別荘で行なった。目下不況で離婚と債務整理の相談ばかり。初日の出は熱海の玄岳で拝んだ。

永田進一君、年末の健康診断で潜血反応あり一月にポリプ切開を予定。年始は七福神詣でをしたが、風邪を引いて、三日より五日

まで寝正月となった。

山本光夫君、目下サッカーのコーチをしている。日旺日は曹洞宗の坐禅に参加している。年末箱根に行き初日の出は金時山より拝んだ。

村上喜代二君、二日に二十人位

家族などが集い新年を寿いだ。

山本和彦君、年末三十日息子と本庄へゴルフに行った。三十一日は一切酒を飲まなかった。

渡辺宏一君、世の中不景気で昨年は大して稼げなかった。正月息子がタイより帰国し共にゴルフに。また静岡の同期新年会に出席したが、二十五人位しか顔を見せなかった。毎日真言宗の御経を唱えて仕事に出るが、こゝ二十年間無事故・無違反である。

仲野実君、ゴルフは七十歳過ぎから始めて皆を直ぐに追いこすつもり。目下パッティングをしたり自転車に乗って足腰を鍛えている。年末年始は家内の実家「京都」で過去帳をゆっくり読んだ。栗田行雄君、現在借入金があるのでまだまだ元気で働いている。正月用の脛は必ず自分が作っている。今年は孫が来ないので二人でゆっくり休んだ。

山下啓也君、国民学校連合会の今年の演題は、「メキシカンダンス」の予定。仲間の吉井駿亮君の奥さん一月四日逝去され、今夜通夜なので先程御香華をあげて来た、と報告。在京生一同で献花する事を決定し、翌日手配した。

渡辺素夫君、東京の人は「×」のことをバツというが、静岡の方

では「×」をベケという。昔トビ

ー工業に就職していた折、清水の造船所に鉄を売り込み、検査の立会いに行った所、土地の人が鉄板に、ベケをくれてやる、マルをくれてやると言っているのを聞いたトビーの上司が、一瞬キョトンとして、何を言っているのか判らないという表情をした。そこで私がベケとは「バツ」のことだと通訳をした。上司にお前は仲々の博学だなとほめられた。

岩本吉雄君、軽井沢の別荘で、初日の出を拝み、善光寺に初詣をした。

小生、二日・四日は湘南ホテルで白雪をいたいだした富士山と伊豆・箱根の山々と、湘南の海を眺めながらくつろいだ。初詣は鶴岡八幡宮、杉本寺、宝戒寺、安養院田代寺へ……。

春のゴルフ大会

四月十五日、西富士ゴルフ倶楽部で二十名が集い、肌寒さを熱気で吹飛ばし、楽しい一日を過ごした。優勝は念願叶った石原良昭君、優勝の挨拶でも、途中でスコアが悪くなった時、新井彰君、伊藤剛君、渡辺進武君の励ましで、やっとこの桶をいだくことが出来たと涙ぐみつつ語った。二位の新井君も挨拶の中で自分の事より





石原君の「ショット」や「バット」の方が心配だったと話した。晴えあるブービーは永田進一君、前々から一度はもらって家内孝行をしたかった、洗利半年分(年二回開催になったので)あればゴルフに堂々と出て行けると。

気のおけない友と一日遊べる事の何と楽しいことか、「鰯半片」と「ゆでた落花生」が他の料理よりもなつかしくおいしかったのは小生の故郷へのおもいなのだらうか。再会を約して東と西に別れた。

(野沢正憲)

「こえ」

この欄は「もう一つの総会」です。気軽に筆を執り、送ってください。

42 吉田 幸一

今年が満米寿。昨年は古典文庫を始めて満五十周年。出版社が出さない埋もれた日本古典文学を会員制で刊行してから六〇〇冊を越えた。詳細は『国史大辞典第十五巻』参照。静岡市では静大図書館にある。まだ続刊中。別に古典文学の著書十二冊、編著五十七冊等。

44 臼井 茂

昨年末八五歳になりましたが東南アジア各国との友好交流の促進が年来の希望です。すでにカンボジア、ベトナム、インドネシアは訪れたので、今年はその他の国々を回りたいと思い、脚と腰のトレーニングに励んでいます。杖をついても歩けるのが有難い。

48 近藤 希賢

年令が八十一才を越えましたがどうやら未だ無事に暮しており、ゴルフや碁を楽しんでおります。

56 青木 良文

総会の出席者が非常に少ない、なぜか、メリットが全然ないからである。例えば証券会社勤務の人が、日本経済の見状からみて、株

の保有の是非論を話しただけでもちがうと思う。今後の総会のあり方について一考を要す。懇親会などは各期毎に行なっているのだから。

57 大島 隆夫

この二月六日で、第六回目の年男を迎えました。おかげ様で健康に恵まれ、毎日を無事過しております。この三月にはスイスのツェルマットで、三週間のスキーを楽しみ予定をたてております。

58 猪瀬 忠賀

長年の不摂生の報いか、狭心症に倒れてから四年余り。しかし、遅まきながらの精進潔斎?の結果唯一の趣味だった海の船釣りを楽しめるようにまで回復しました。それにしても静中の門を去って五十余年、無量の感をかみしめております。

60 池上 晴介

一昨年春左マヒを軽く起し御心配おかけしました。半人前位はと働いております。

66 山梨 裕司

本年五月末で現役を引退します。引退後をどう過ごせば良いのかと思案投首の今日この頃です。

68 大場 正己

北里大学で教員、大病院で医師を、元気でやっています。

69 笠井 耕一

本年(日8)3月勤めを終り、家に居ります。

72 石井 正明

昨年11月9日、静岡での72期の総会に出席し懐しい面々に再会できました。

これを契機に関東同窓会へも積極参加の意向です。幹事さん、よろしくお願いいたします。

84 成田恵理子

90期の見城様の御意見(42号)を伺い全くその通りでした。決して輝く事のなかった日々を送った身にとって、消し去りたいページもありました。しかしこの歳になつて何がそうさせていたのか、考えてみようと思ふ様になりました。

85 高橋 成彰

幹事さん、ご苦労さまです。当方は、都内葛飾区の「葛飾区役所」に勤務しています。

94 松岡 幹生

久々に関東に戻って来ました。住所は浦和で職場は川越です。川越は風情のある街で、蔵造り

第50回「江の島会」

記念総会のお知らせ

一、九月七日(日)正午開会

一、江の島恵比寿屋旅館

一、連絡先 江の島会事務局

59期 奥沢徹(勝山塗装内)

(〇四五―三〇一五五四五)

なお、詳細は例年通り八月月上旬頃ご案内を発送しますので、多数ご参加ください。



静岡だより

静岡駅南口に新ビル

JR静岡駅南口に建設が進められていた高層ビル「サウスポット静岡」が完成しました。

地上二五階、地下二階のタワー棟と六階建の低層棟とで、延べ床面積約七万二千平方メートル、高さは駅南地区ではもっとも高い百十メートルということです。

タワー棟の十六階までは事務所、上部は小田急ホテル客室が占め、低層棟には宴会場など、同ホテル関連施設が入る計画です。今年の秋の同窓会総会はこの会場に、という予定だそうですから「乞うお楽しみ」といったところでしょう。

静岡バイパスが全線開通

国道1号静岡バイパス（清水市興津東町―静岡市九子二軒家間約二十四キロ）が、この三月ようやく全線開通しました。事業化からなんと二九年もかかったの完成。

環境問題やオイルショック、地価高騰、住民運動などに揺れつづけたこの工事、総事業費は二千百億円、そのうち用地費七百五十億

円ということですが。

静岡地区の交通混雑緩和と経済発展を狙いにつくられたこのバイパス、一週間後の状況は、通行車両の集中でバイパスは混雑、平行する国道1号や県道静岡清水線の渋滞は緩和されている―という調査結果がでました。一般道の渋滞緩和は、一時的なものともみられるものの、交通分散の効果はでているという見方がされています。反対に静岡市平和町、沼府二丁目交差点、九子インターなどは二五キロの渋滞がおきるなど、利用者や付近住民からの不評がおきています。このため一般道との立体交差など新しい課題が早くも浮上してきています。

（67期 光木 徹）

定期戦で静高快勝す

第39回静岡高対静岡商野球定期戦が4月29日、静岡草薙球場で行われ、静岡が4―0で快勝した。

1―0で迎えた5回裏、3番寺田の3ランで試合を決め、投げては西川・青木のリレーで完封した。定期戦通算は24勝15敗。

甲子園出場に期待と声援を！

――野球部創部100周年記念式典――



←懇親会場で石山氏（前列右から三人目）を囲んで

平成八年十二月一日に開かれたした野球部創部一〇〇周年記念式典には、野球関係者をはじめ政財界・OBを含め約三〇〇名が出席し盛大に行なわれました。

式典では田口元監督以下八名の

方々に、感謝状と記念品を贈呈致しました。

そして記念講演として、昭和三五年夏の大会、甲子園準優勝時の主将で、現在巨人軍の編成部長を務める石山建一氏が「私の野球人

生」と題して現役生を中心とした密度の濃い話をされ、自身の経験を基に目標をきっちり定めてトレーニングすることの大切さを説き、勝つ為には現場は勿論のこと学校及び後援会・OBの支援が欠かせない事を強調されました。

また懇親会では山川静夫氏、村松友視氏、近鉄赤堀投手の三氏によるトークショーも来場者の拍手喝采を浴びました。

これからは二十一世紀に向けて夢と希望と誇りを持って伝統ある静岡静高野球部が、一〇一年目のスタートを昭和六十二年以来遠ざかっている甲子園出場に期待を込めたいと思います。

今度共よろしくご声援ご協力の程重ねてお願い申し上げます。

（74期 OB会長 海野誠治郎）
△付記▽記念事業の一つとして、

「汗と涙と青春と……」静岡静高野球部一〇〇年物語」が昨年12月21日、静岡朝日テレビにより県内に放映されました。

明治29年発足以来の歴史、白球のドラマを関係者の証言や映像で振り返り、近鉄赤堀投手らの活躍や現野球部員の声など、リポーター役の山川静夫氏（67期）の努力によってすばらしい内容となり深い感銘を受けました。

平成八年度 会費拠出者

平成 8 年 4 月 1 日 ~ 9 年 3 月 31 日
(順不同、敬称略・寄付金を含む)年会費三千円拠出の方は、
数字の記載はありません。

42 吉田幸一(7)、菊地謙雄、井

43 上寿徳(2)、岩波信平

44 坪 晴行(5)、望月孟夫、三

45 好由三郎、長戸寛美、三宅静

46 雄(2)、倉澤栄吉、西沢純三

47 臼井 茂(13)

48 下川 猛、田村敏三、鈴木弥

49 門、蝦原一郎

50 西 静男、内山規(6)、丸杉

51 孝之助(2)、田中修三、篠原

52 清

53 田中達夫、星野三郎、杉山栄

54 一(2)

55 岩崎鑑一(7)、原崎進一、近

56 藤希賢(6)、伊藤重久(2)、

57 大橋廣世、黒水高典、青木香

58 伏見賢次郎

59 杉本久敬、篠原 恭(2)、大

60 津英輔(2)、石田大二郎、嶋

61 三四郎(2)、直原敏衛、長井

62 廣、菅沼 栄

63 峰田静夫(5)、田中 誠、山

64 田喜志夫(6)、大庭左文(5)

65 大庭富士夫(2)、堀原忠治

66 森 弘、田中賢一、原崎郁平

67 (6)、林 盛次、難波悦朗

(2)、渡辺 功、伊藤演吉

(2)、鈴木孝雄(2)

52 田中貞二、広川 隆、市川雄

八郎、大草知久(2)、小川善

次郎(2)、茂呂茂樹、西田豊

馬(2)、石野浩一(2)、松永

圭司(2)、岩本良雄(2)、綾

部立一、直原澄衛、鈴木三男

服部雅雄、新美 弘

53 桜井昌也(2)、小野一夫、松

前新吉郎、志田寿一(2)、三

枝正裕(2)、山菅幸雄、宗像

醇(6)、徳永悠久、橋本久仁

寿、月見里得知郎、大石 敏

望月昂(6)、木宮高彦、鈴木

弘雄、園田芳男(2)、片桐鎮

夫

54 佐野圭司(6)、庵原梯次、山

口道也、居初良雄、安東哲夫

高井 昂、大畑忠夫(2)、佐

野賢郎、磯野 修(2)、柴崎

芳三、渡辺治郎、大藤直久

55 小沢忠樹、堀江重遠(2)、松

井保治、日比光明、鷲巢英策

(2)、相川富士雄、中田吉信

山下武男、長澤栄一(2)

56 清水逸郎、石塚由雄(5)、奥

野 進(6)、北村 甫(7)、

原田昇左右(10)、青木良文、

川崎 博、高橋四郎

57 杉山正友(4)、藤巻重男、影

島利邦、福住俊郎(2)、坂田

秀雄、天野喜久雄(2)、岡田

淳巳、菅 稔(5)、加藤健三

(5)、島根光明、月見里礼次

郎、岩井平一郎、岩柳順二

(2)、米澤正次(2)、鈴木明

大島隆夫、富田 澄、望月修

稲葉 登、渡辺武男

58 萩原義臣、須山静夫(5)、鈴

木栄三(2)、原木陸雄(6)、

伊藤健三(2)、望月恵一(1)

猪瀬忠賀、島村 悟

59 狩野和男、青木静男、酒井哲

夫(2)、伊藤光雄(2)、寺尾

宏一郎(2)、田沢義彦、菅原

操、青木 豊(2)、三輪 潔

(2)、小沢武彦(2)、内田武

二、小花敏郎、加藤恵一、奥

沢 徹、清水 汪、長谷川邦

三、原 淳(2)、福原元一、

大村和夫、川田 昭、佐野英

一、福地 疆

60 萩原莊太郎、時田正康、黒田

武之助、山本正三、井田 淳

新聞昌輝、山路敏三(2)、大

石隆一、上杉重吉(6)、笠間

達男(6)、石関忠雄(2)、渡

辺 博、里見元一郎、堤 崇

61 (5)、辻村輝彦、山本雅之助

(6)、君島康弘(5)、鈴木光

男、野沢栄司(6)、山本善通

齐木 学、鈴木 明、逸見昭

三、池上晴介(2)

62 大石次男、花見 久(5)、萩

原将弘、鈴木 孝(6)、相馬

孝(2)、山崎和夫(6)、君島

敏男(2)、福田英雄、清水照

彦、片桐 篤、青木邦彦(4)

高村岳史(2)、天野 昭、西

田駿之介(5)、稲森慎二(5)

仲野辰男(6)、大村富士男

(2)、芹沢博樹、八木貞二、

宇都宮道和、長瀬 脩、黒川

泰三(2)

63 吉川隆士、勝山弘之、横井

一(5)、川手生巳也(5)、伊

東 守(2)、高田桂造(6)、

真田宗明、海野昭平、大沢三

朗(2)、三枝弘之、小宮鳥夫

(1)

64 松下一男(2)、馬場泰男、

山本和彦、浅井幹夫、岩本吉

雄、神谷武男、栗田行雄、佐

野旭、鈴木明郎、竹内 豊、

塚本光彦、名波倉四郎、仲野

実、長島 健、馬場泰男、益

頭尚文、村上喜代二、望月康

逸、八木綱三、柳田堯、吉井

駿亮、渡辺宏一、渡辺素夫、

65 桜井富士男、山下啓也、望月

坦、加藤 満、野沢正憲、近

藤栄(5)、蛭川博之、永田進

一、杉本 哲、井戸良輔(5)

大坪信之、小林五郎、河守輝

雄、藤原隆二、大塚修弘、藤

(原朝則、増井和夫、西田尚史

(2)、中村伸吾、大村敏夫、

小嶋清司、石川創二、安池智

策、瀬尾 章、湯浅 謙、田

中俊男、曾根錦吾、安田正弥

菊田聡裕、武藤 勇、馬越峻

山下裕一、村松武司、三原載

村越立彦、川合 勉、加藤昭

内田幸雄、山梨裕司、鈴木宏

治、佐野栄一、前田和彦、原

野谷朋司

67 矢部 隆、稲葉昌弘、小杉弘

福原亨一、増田安国、小杉謙

一、吉野 亨、丸山英久、加

藤友行、岩崎為明(2)、梶原

由三、朝倉 勇、川上剛二、

黒田秀幸、成岡英彦、小坂博

児島英男、朝比奈正三、鳥居

滋夫、山岡 進、岡村英二郎

鎌野悦雄、塩澤 満(10)、手

塚重明、大森忠吉、向井久和

戸塚惣雄、遠藤一彦

68 鈴木昭夫(2)、萩原多賀男、

雨宮明生、大川庄治、河口浩

秋山和也、高橋俊見、塚本浩

司、植田勇夫、杉山忠男(5)

吉崎英輔(2)、宇田貞子、白

鳥健次(2)、鈴木俊彦(6)、

酒井定子、藤波真五(4)、立

花雅一、荒谷じつ子、市原卓

(2)、今井 久(2)、井口禎

(2)、星野敏郎、小林功典

- 72 小池啓治(2)、宮崎次郎、石川 宏(2)、松井正年、加藤祐史(6)、山崎恭弘、本間啓司(2)、長倉真一、片山嘉博(2)、浦田 彰、青木庄二郎、海野幸雄、実石欣哉、篠原直今村清彦(6)、安藤龍男、川上貫三、曾根敏美、山田卓夫(10)、山本弘美(2)、橋爪尚也、酒井 力(2)、西野 章、梅原孝允
- 71 清水雅彦(2)、山田 勝、石井正明
君島武男(6)、松野 猛(2)
大長義信(6)、西本昇平、山田 修(2)、山本 登(5)、永井敏夫(6)、深尾 皓(5)、外山真佐樹(7)、深澤靖男(2)、青木俊一郎(2)、鈴木 齊、山本一雄、山中博司、柴山欽伍、石川八洲夫、石割浩司、山下茂夫、杉山洋司、鈴木 豊、鈴木良明、大村康平、松下勝朗、三浦英夫、山梨由記、宗像純司、佐々木勝彦、望月 篤、松永 烈、大村 博、近藤 守、松永文夫、小山武夫、田中重穂、望月公美、大石堯史、安藤頼男、齊藤幸男、小柳忠義、今泉 勝(5)、山下省三(2)、服部信司(2)、鈴木千秋(2)、原崎幹男(2)、山崎智弘(2)、麻生貞敏(2)、大木 茂(2)、後藤 宏(2)、羽山 武(5)、塩津 浩(2)、渡辺雅俊(5)、飯野 理、野桜茂章、鈴木智彦
- 70 加藤喬志、松島玲子、神谷貞子、笠井耕一、田川邦子
岩崎 修(2)、大地不二雄、谷川浩弘、松永 茂(2)、遠藤和夫(10)、吉田 修、中村龍二、石川 悟(2)、渡辺勝美(2)、坂本 康(2)、関 哲男、佐々木政之(5)、白石通子(2)、村松勝治(2)、北村 孝(2)、宮代省一、鈴木明次(6)、石山 博(2)、久沢正雄、大高源之丞、大場良臣、富田三樹(6)、村上雅一大草敏郎、三上隆英、調子達郎(2)
- 69 稲葉一守、石上省三(2)、鈴木三郎、角谷治子、佐野捷造、佐藤薫郷(5)、水上雅雄、中村牧子、今田 肇
- 73 熊谷敦子、井鍋正良、佐藤鐘司、山脇伊久男(5)、藤原經史(4)、近藤豊美、井上 進、塚本 豊(5)、井出宏嗣、松下晴一、花本榮二、中西恭二、山口雅子(5)、木村 敦(2)
- 74 熊谷敦子、井鍋正良、佐藤鐘司、山脇伊久男(5)、藤原經史(4)、近藤豊美、井上 進、塚本 豊(5)、井出宏嗣、松下晴一、花本榮二、中西恭二、山口雅子(5)、木村 敦(2)
- 75 齋藤俊英(2)、富田駿介、加藤 助、大石直行、伊藤哲治、小林陽一(8)、野方重人、山名晴隆、三浦位通(6)、深山源一(2)、大隅多一郎(6)、清水雅尚、飯田善久(7)、鈴木 宏治(2)、稲森和夫、小長井奎幸、岡村 稔、松井義之、岡本天晴、小池淳夫、柴田哲男、石山健一、杉山元章、石間啓一、増田洋美、伊藤達雄、佐藤昌男、栗野吉洲、斎藤浩一
- 76 齋藤俊英(2)、富田駿介、加藤 助、大石直行、伊藤哲治、小林陽一(8)、野方重人、山名晴隆、三浦位通(6)、深山源一(2)、大隅多一郎(6)、清水雅尚、飯田善久(7)、鈴木 宏治(2)、稲森和夫、小長井奎幸、岡村 稔、松井義之、岡本天晴、小池淳夫、柴田哲男、石山健一、杉山元章、石間啓一、増田洋美、伊藤達雄、佐藤昌男、栗野吉洲、斎藤浩一
- 77 清水雅尚、飯田善久(7)、鈴木 宏治(2)、稲森和夫、小長井奎幸、岡村 稔、松井義之、岡本天晴、小池淳夫、柴田哲男、石山健一、杉山元章、石間啓一、増田洋美、伊藤達雄、佐藤昌男、栗野吉洲、斎藤浩一
- 78 石井博之、島田洋子、諸星勝保(5)、松浦正朗、入谷健彦、榎本 進、竹内 勤、鈴木 勝、水野雄三、吉田昌史、堀内淳司、鈴木としえ
- 80 諸星勝保(5)、松浦正朗、入谷健彦、榎本 進、竹内 勤、鈴木 勝、水野雄三、吉田昌史、堀内淳司、鈴木としえ
- 81 浅川祥子、吉野文江、赤坂雄一郎(10)、山田孝夫、田辺哲柳沢正芳(4)、渡會清治、大隅恵子、杉本 淨(2)、佐藤明男(2)、水越伸昭(2)、杉山順一、成田恵理子、永田 悟、牧野英敏、石垣政良
- 82 浅川祥子、吉野文江、赤坂雄一郎(10)、山田孝夫、田辺哲柳沢正芳(4)、渡會清治、大隅恵子、杉本 淨(2)、佐藤明男(2)、水越伸昭(2)、杉山順一、成田恵理子、永田 悟、牧野英敏、石垣政良
- 83 高橋成彰(5)、池田幸司、増井喜一郎、佐久田博司(2)、原本昇一、磯谷修平、望月敬生、遠藤岳陽、三上嗣夫、井出慎吾
- 84 石渡洋行、新井宜夫、石川嘉和、猿木和久(6)
- 85 永田 悟、牧野英敏、石垣政良
- 86 井出慎吾
- 87 石渡洋行、新井宜夫、石川嘉和、猿木和久(6)
- 88 杉田達哉(2)
- 89 松田とも子、田辺文子、スミス京子、栗山伸一、山内 修、荒井千明、荒井郁子、岡村幸彦
- 90 松田とも子、田辺文子、スミス京子、栗山伸一、山内 修、荒井千明、荒井郁子、岡村幸彦
- 91 松野敦子(6)、大石修一(2)、松永 啓、松岡幹生、矢部龍太郎(1)
- 92 池野雅義(4)
- 93 前田恵吾(2)
- 94 芹沢哲志、岩本裕二、杉山真之(2)
- 95 佐野正幸(2)、鈴木洋一郎(2)、五十嵐 寧(5)
- 96 岩本牧子(2)
- 97 加藤幸志、井沢史代、相坂拱治、加藤 隆、川上 勤(2)、藤島雄一郎、望月昭宏、望月 謙、宮城島一彦(1)
- 98 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 99 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 100 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 101 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 102 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 103 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 104 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 105 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 106 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 107 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 108 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 109 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 110 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介
- 111 大橋寛子、田中 満、村松 亮、坂口雅彦、青山倫久(2)、宮城島綾子(25)、湯口崇之、山口展弘(2)、児玉良介

◎事務局より

●一年に一度の関東同窓会総会は六月二十日(金)——同級生などと一緒、ひとりでも多くお元気な姿でお集まりください。〈詳細は第一面に記載〉

同封はがきで出欠のご返事を至急お願いいたします。

●関東同窓会の円滑な運営のため平成9年度年会費(三千元)の納入をよろしく願っています。

同封の振込用紙で、ぜひぜひ協力ください。なお用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納にかかわらず同封しておりますことご諒承ください。

●各期幹事諸兄姉のご尽力で同期会を開催し、その報告を会報にのしどしご寄稿ください。

●宛先不明のため、会報返送が毎号多数あります。住所変更の場合至急ご一報のほど願います。

◎事務局へのご連絡は：

〒153 目黒区上目黒2-18-13 山中ビル

タカラ歯科医院内 静中・静高関東同窓会

薬科名雄(87期)

(電)〇三三七九二一三五八〇

(午後2時〜6時の間)

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴 木 通 弘 (76期)

清水市入船町11-1
TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)

東京支店 〒105 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7 1 9 2

新日本証券

相談役 大石 巖 (53期)

専務取締役 海野 幸雄 (71期)

本店/〒101 東京都千代田区神田駿河台3-11

☎03(3219)1111

建築コンサルタント・設計施行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

齏 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53期)

取締役社長 奥 野 進 (56期)

取締役副社長 奥 野 広 (58期)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

Tel 03-3842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 054-246-9378

日本レーベル印刷齏

代表取締役 岩 井 平一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)

東 京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F

TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

齏 勝山塗装工業所

代表取締役 奥 澤 徹 (59期)

本 社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547

大和工場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

株式会社 富 士 越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3 3 4 2 (代)

TEL (3400) 9 5 4 1 (代)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

熱 函 病 院

院 長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-3254-2171 (代表)

☞ 昼2時より夜11時まで診療 ☜

タカラ歯科診療所

代表 ^フ ^シ 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480